

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社 ふぁみりい		
事業所名	グループホーム ふぁみりい		
所在地	秋田県 大仙市 四ツ屋 上古道 199-1		
自己評価作成日	平成27年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「1日1笑」を大切に、スタッフ、利用者が日々笑って過ごせるよう努めています。おしゃれを楽しみ、健康に過ごし、おいしいものが食べれる。そして季節を感じともに年をとる。季節感がある食事をし、外出にも力を入れ、目で耳で臭いで季節を感じていただけるような施設づくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の能力に合わせ、利用者の自信に繋がる介護をモットーに楽しいと思っていただけるようなケアを目指し、農園の管理や食事の準備を一緒に行い、また、排泄の自立に向けて努力され、利用者の力を活かした支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まずは、介護する私たちが笑っていること、そこを念頭に置きながら、職場が楽しい、仕事が楽しい、だから介護が楽しいという場を作り、日々努めている。	利用者の能力に合わせて自信に繋がる介護を心がけ、利用者と共に楽しい日々を送れるよう職員全員で理念の共有化を図っています。	理念の実現に向けて更なる取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしながら、農協、郵便局、コンビニ等に行ったり、祭り参加、敬老会参加など積極的に出向いたり、来ていただいたりしている。近年は地区祭りの際に施設前で手踊り等披露していただいている。	運営推進会議を通じて地域との関わりが深まり、地域の一員としての役割を積極的に進める努力をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談所ののぼりを掲げている。他施設では近所の方々と交え、認知症の勉強会をしたりしているようであるが、なかなかそこまでは踏み込めていないのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じ、地域の代表の方から、近所の方々から施設に対する要望を聞いたりし、答えることができています。	行政、地域代表、協力医、家族、利用者が参加して18:30から開催されて意見交換されています。地域代表からの情報提供を通して、地域との関係が良好に保たれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に会議を通じてであるが2か月間に起こった特記事項や施設の行事、研修、様子等を伝えている。	運営推進会議には必ず参加されており、ホームの現状、取り組みを伝え協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会をもうけたりし廃止に努めており、施錠せずセンサー等で対応していたが、現在は心配される利用者も特におらず、センサーも鳴らさずに対応している。	報道される事例を基に話したりしながら職員に周知を図り、職員間でも注意し合える環境をつくって拘束をしないケアに取り組まれています。利用者の行動を理解して安全に配慮し、実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて行っており、ニュース関連も題材にしながら、小さなことも話し合いながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名利用している方がおり、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはもちろん説明を入れるが、その後も疑問等を感じた際はすぐに話してもらえるよう、声掛けをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進では家族代表は1年ごと、利用者代表は毎回変え、意見を述べれる場を設け、面会の際にも何かありましたらお気軽に…ということは伝えている。	苦情はないものの、面会時等の家族との話は記録に残してサービスの向上に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りは密に行い、月1回の職員会議ではそのまとめで、業務にまつわること、要望等を代表者に伝えている。	職員の意見や備品購入等の要望は代表に伝わり、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日短時間でも、出向いてくれ、細かい相談も行える。また給与については把握しかねるが、働きやすい環境づくりという点に関しては柔軟に対応されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日勤扱いで、交通費等もいだけ、研修に行きやすい体制である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修や交流会ではあるが、行きやすい機会を設けていただいている。また他機関から講師に来ていただいたり、介護福祉士等の試験前には実技の演習に来ていただくことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の聞き出しはもちろんであるが、生活したうえで本人が言葉に出せなくても、困っていることを見つけ出し、サービスに取り入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個別に相談できる場を設け、本人の前で話づらいこと等を聞き出している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずは名札や制服を使用せず、自然な形での介護を行う。見た目から壁を作るようなことはしないことを心掛けている。共同作業も毎日のように行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月状態、状況報告する手紙を渡し、面会しやすい環境づくりを行ったうえで、負担にならないよう協力できることはしていただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に気軽に電話をくれたり、会いに来ていただいたりしその際の対応も、来客がまた来ていただけるような対応に努めている。	家族、親類や自宅の近所の人、通院時の看護師等、その人にとって大切に思っている人や馴染みの関係を把握して支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々ができること、できないことを補い合いながら手伝いをしていただいたり、共同スペースでくつろげるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設を利用しても、時々面会している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に聞いても暮らしていくうちに、ニーズは変わってくる。状況を見極めて必要と思われることを盛る混むようにしている。	日々の利用者との関わりの中で意向を把握し、申し送り時に意見交換して検討されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年に1回アセスメントを行い、過去を再認識するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りで9名分行い、状況、状態把握に努め、職員会議時は総まとめとして、今後どうしていくべきかを話し合っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに評価をもうけ、家族本人からの意見を評価できるようにしており、次回計画に反映できるようにしている。	担当職員と管理者がモニタリングを行い、家族にも評価していただいた上でそれぞれの意見や要望を介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録にて状態を記入。計画に沿いながらも、問題や言動が生じた際には新たな計画につなげるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、廃油捨て、郵便物等の投函など極力一緒に行けるよう努め、地域の方々にも理解していただき、安全に暮らせるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医の受診はもちろんであるが、顔なじみの医者等の昔ながらの安心できる医師に極力かかるよう心掛けている。	協力医への受診の他、本人の希望する医療機関で受診されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問看護の際に情報を共有し、助言アドバイスを受けながら、改善に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医に相談しながら、指示を仰ぎ迅速に対応できている。また退院後に帰って来る場所があることを伝え、家族や本人の安心をえている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはもちろんであるが、状態が変化した場合には再度今後のあり方について検討する場を設けている。	希望される家族もあり、ホームの指針に基づいて対応できるように体制を整え、看取りについての研修も実施されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の方に講師をお願いして、研修をもうけ意識向上に努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いの下避難訓練を行い避難の経路、仕方を身に付けている。	ショートステイと合同で訓練されており、ホーム独自の訓練も検討されていますが、実施には至っておりません。	様々な場面を想定して訓練での課題を具体的に活かし、更に夜間の地域の協力が得られる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時などは特に、羞恥心にさらされないように、行動等は自尊心を傷つけないような声掛け、介助に心掛けている。	利用者の性格を把握し、言葉遣いや対応に配慮されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、何をしたいかその都度確認するよう心掛け、回答が困難な場合は2者択一するように選択肢を設けるようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、体操、レクリエーション、入浴などすべての場面において無理強いをしないようにし、本人のペースを尊重するよう心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある衣類を着れるような配慮を行い、本人に選択できるような声掛けを行い、特に外出時は気合を入れて楽しんでもらう。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、遅番が買い物に行く際に、何を食べたいか聞きながら、買い物に向かっている。食器を拭く人、片づける人等役割分担がある。	食材の買い物に同行されることはありませんが、希望のメニューや外食を取り入れています。できることを職員と一緒にいき、食に対する前向きな気持ちが引き出せるように努力されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記入。水分制限のある方もいるため注意しながら行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後徹底した声掛け、介助にてみんなが行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皆がトイレ誘導を行っており、トイレでの排泄ができるよう個人に見合った時間帯での声掛けを心掛けている。3名の方は紙パンツから布パンツに変更できている。	一人ひとりの習慣に合わせて声掛けし、トイレでの排泄を支援されています。排泄後の確認が必要な利用者もおられますが、適切な支援で自立されている利用者も多くみられます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時ヨーグルト、15時牛乳、毎食繊維食を心掛けており、体操も毎日行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のニーズに添えているかというそうではないが、必ず2日に1回の入浴を行い、入浴日でない方も足浴等の希望をする人がいるので希望を聞いている。	時間帯等の希望に沿えないこともありますが、拒否される利用者もなく、1日おきの入浴支援をされています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時の対応や、午後からの飲み物の注意などをし、安眠に心掛けている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を減らす方向で心掛けている。医師も協力的であり、やってみて、ダメなら戻そうという考えで行っており、数名減量できている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵が好きな人、歌が好きな人、調理手伝いが好きな人…要望に合わせて楽しみながら役割を持つことができている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は参加者を募り、散歩に出かけたりしている。主に季節にあった行事を計画し、月に2～3回の行事と月に1回以上を目標に、受診以外の外出を設けるよう努めている。	ホームに閉じこもらない暮らしができるように配慮され、天候をみながら可能な限り外出されています。畑の管理も職員と一緒にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名は自己管理が希望であり、任せている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際はそのようにしており、家族以外の電話、面会も自由に行えるような環境作りに努め、来所時には居心地の良い空間となるよう心掛けている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除することでみんなで清潔にし、居心地の良い空間を作り出している。施設内は窓も多く、明るい空間ですごすことができている。また匂いに敏感になりその都度消臭剤等で対応できるよう心掛けている。	ホーム内はバリアフリーで玄関、廊下、ホールは広く、ゆとりが感じられ、居室入口も広く、ベッドが楽に搬入できる造りになっています。また、採光も確保され、明るい空間づくりがされています。	経年による利用者のレベル低下に合わせてトイレ前に椅子を設置する等、共用空間づくりを検討されることを期待します。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度決まった流れはあるが、居室で休みたい人、ホールにいたい人、思い思いに自分の時間を過ごせている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と本人と空間づくりを行った後、その後も希望がある場合はそのように、のべれない人にはみんなで検討しながら過ごしやすい空間を検討している。	家族の面会時に座ってゆっくり過ごせるように、フローリングに置き畳を敷いている利用者もあり、一人ひとりが生活の場として安心して過ごせる配慮がされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違ってしまう方には表札をつけ、トイレ等混乱がv無いようにしている。歩行が不安な方が歩きやすいよう、手すり、バリアフリー等で対応している。		